

感作性試験

モルモットを用いて、検体の遅延型アレルギー反応の一つである感作性を引き起こす可能性の有無を調べます。

試験方法	ガイドライン	料金(税抜)	納期
Guinea Pig Maximization Test*1*2 (GPMT 法)	ISO 10993-10 医療機器ガイダンス OECD TG406	115 万円 または 190 万円	約 3 ヶ月
Adjuvant and Patch Test (A&P 法)	医療機器ガイダンス	115 万円	
Buehler Test (ビューラー法)	OECD TG406	130 万円	

*1 試験目的によりガイドラインが異なります。詳しくはお問合せください。

*2 GPMT 法には、有機溶媒抽出ではなく、生理食塩液および植物油の 2 溶媒抽出もございます。お客様の指定で 1 溶媒のみも可能です[料金：1 溶媒で 115 万円(税抜)、2 溶媒で 190 万円(税抜)]。

<試験方法>

使用動物	モルモット
群設定	検体投与群，陰性対照群，陽性対照群を設定し，1 群 5～10 匹使用します。
適用(例)	一次感作：検体及び検体とアジュバント(免疫賦活剤)の混合物を皮内注射。 二次感作：検体を閉鎖貼付又は開放塗布。 惹起：検体を閉鎖貼付又は開放塗布。
観察・評価	惹起後，24，48 及び 72 時間に，惹起部位における皮膚反応の有無を評点付けし，感作性の有無を判定します。 観察時間は，試験法によって異なります。

<ご依頼に際して>

検体必要量は、試験法等によって必要量が変動しますので、ご相談ください。